

寅さん歩 その 23

東京の博物館めぐり－49

中野区－1



平野 武宏

新型コロナウイルス感染拡大が続いていた東京都の緊急事態宣言が 2021 年 10 月 1 日から解除になりましたので、お休みして残っていた区の博物館めぐりを再開しました。寅さん歩 東京の主要道路の起点～終点シリーズと並行して掲載しています。

今回は中野区の博物館めぐり（2021 年 12 月訪問）です。右上の写真は J R 中央線 中野駅北口にある中野サンプラザ(右)と中野区役所(左)です。中野サンプラザは老朽化のため解体・建て替えが決まっています。区内にある博物館(記念館・資料館・展示館等の総称とします)から寅次郎の好みで選び、独断と偏見の紹介と感想です。詳細を知りたい方は各博物館のホームページをご覧ください。入場料の記載なしは無料、最寄り駅は代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

[山崎記念中野区立歴史民俗資料館] 中野区江古田 4-3-4

最寄り駅 西武新宿線 沼袋駅

中野区立歴史民俗資料館の前身は中野区史料館で、郷土の文化遺産を保存し展示活用していく目的で 1962 年（昭和 37 年）、中野 2 丁目に開館しました。1989 年（平成元年）に山崎喜作氏より寄贈された当地に名称も新たに「山崎記念中野区立歴史民俗資料館」として再開、2021 年 4 月リニューアルしています。



写真上左は新青梅街道に面し、沼袋交差点近くに立つ全容で、写真上右は入口です。開館時間は9時～17時、休館日は毎週月曜日、毎月第3日曜日です。

1階の特別展示室のテーマは地元北野神社で行われる酉の市の展示(写真下左)と写真による中野の史跡の紹介(写真下右)です。隣の調査研究室では中野区に関する参考図書が閲覧できます。



2階の常設展示室は「武蔵野における中野の風土と人びとの暮らし」で中野に生きた人びとの歴史と民俗を紹介しています。中央(写真下左)に宝仙寺三重塔、御囲(こぼれ話をご覧ください)、哲学堂公園、江古田獅子舞、鷺宮囃子を紹介、周りには旧石器時代から現代に至る中野の歴史を紹介しています。



2階の企画展示室では企画展「東中野の日本閣 ―婚礼場の100年―」が開催されていました。日本閣は1920年（大正9年）の創業から100年となる2020年（令和2年）に閉場しました。挙式したカップルは約11万組とのこと。寄贈された資料により日本閣の100年を辿ります（写真下）。



館外に出ると建物の周りには醸造・製粉で使われた「石臼」（写真下左、二枚を合わせて歯車のように使用）や「とうこ」（写真下右、漬物用大樽で大根4〜7千本が漬けられる）が展示されています。青梅街道中野宿は江戸へ供給する物資の集約場として栄え、明治に入り醸造や製粉などの地場産業が成長しました。庭園内は常時公開されていませんが、樹齢500年を超える椎の木がありました。



〔こぼれ話〕 中野の犬屋敷 中野区中野 4-8-1

最寄駅 JR中央線 中野駅

歴史民俗資料館で見た「御囲（おかこい）」の案内が中野区役所前にあると知り、立ち寄りました。沼袋交差点から中野駅行の便利なバスがありました。中野のランドマークである中野サンプラザの隣が中野区役所です。区役所入口手前左側に犬の彫刻が並んでいました（写真下左）。説明板によると〔中野の犬屋敷〕は五代将軍徳川綱吉が設けた幕府の野犬保護施設で、犬を囲って飼育したことから、「お囲い御用屋敷」ともいいました。中野四丁目あたりの旧町名「囲町」は

これに由来します。綱吉は「生類憐みの令」によって殺生を禁じ、特に犬の保護策を強行しました。政令を守れず、飼い犬を手放す人が続出。犬の行き場がなくなり、野犬が増えて、収容施設が必要になりました。江戸郊外の中野（当時は幕府直轄支配地）に最も大規模な犬屋敷を造らせ、支配役以下多数の役人や医者置いて、野犬の飼育にあたらせました。犬屋敷は 1695 年（元禄 8 年）末に収容を開始し、綱吉の死去により 1709 年（宝永 6 年）に廃止されるまで、15 年間存続しました。敷地は現在の区役所を中心に J R 中央線を挟んで約 30 万坪（100 ヘクタール）に及び 5 つのお囲いには、各 100 棟の犬小屋・餌場・日除場・子犬養育場があつて、最盛期には 10 万頭以上、飼育費は年額約 10 万両



（今の約 100 億円）に達しました。その後、幕府は方針を変えて、めす犬の収容を主体とし、他は近在の農家に養育料をつけて預けることにしました。犬屋敷の莫大な費用は江戸の商家や天領の農民たちの負担で賄われました」と記載。

この説明板を読みながら将軍の行き過ぎた愚かな言動を止めら

れなかったことに対する怒りが込み上げてきた寅次郎でした。

「お囲い」の跡地は歴史の流れの中で大きく変貌を遂げています。中野区立歴史民俗資料館の資料には「跡地は広大な雑木林や桑畑となりました。1897 年

（明治 30 年）ここに「陸軍鉄道大隊」（通称「囲町軍事施設」）が設けられました。鉄道大隊は、日清戦争の折の物資の補給方法に鉄道の役割が重要であるということで生まれた鉄道専門部隊でした。軍事的な研究・活動ばかりでなく、民間の鉄道敷設にも活躍し、近くでは西武村山線（現在の西武新宿線）の工事を担ったことが知られています。日露戦争で通信技術向上の必要性が注目され、1907 年（明治 40 年）「陸軍電信連隊」と改称し、大型軍用飛行船「雄飛号」の製作、「軍用伝書鳩」の開発が行われました。情報伝達の研究はやがて情報戦略と進み、1939 年（昭和 14 年）にスパイ養成学校として有名な「陸軍中野学校」が敷地内に設けられましたが、未だに謎のベールに包まれ、その内容はわかっていません。軍事輸送から情報伝達、そして情報戦略へと現代のパソコンや携帯電話につながる科学的発展がこの地で培われたのです」と記載。

その後は警察大学校となり、たぶん警察犬の訓練も行われたと思います。

犬に縁のある土地ですね。

警察大学校の跡地は 2012 年（平成 24 年）中野四季の森公園（防災公園・区民の憩い地）に生まれ変わりました。公園の隣には中野区役所、中野サンプラザ、オフィスビル、大学などが立ち並んでいます。

寅さん歩 266 官公庁の食堂めぐりー19 中野区役所、寅さん歩 221 東京の学食めぐりー26 明治大学中野キャンパス、帝京平成大学中野キャンパスでランチをお楽しみください。いずれも寅次郎おすすめのランチです。

〔バーチャルウォーク途中報告〕

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースが FWA ホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、「弥次さん 喜多さんと伊勢参り」のバーチャルウォークで伊勢神宮での参拝を済ませ、弥次さん 喜多さんと別れ、四日市日永追分に戻り、残った東海道五十三次を京三条に向かい、2022 年 1 月 15 日、山城国（現在の京都府）京三条（日本橋から 492 k m）に到着しました。これにてバーチャルウォーク東海道五十三次を完歩しました。写真下は東海道五十三次（日本橋～京三条）のコースシートです。



次は「バーチャル 東北復興支援絆ウォーク」で福島県相馬市から青森県八戸市までの 410 k m に挑戦します。

緊急事態宣言は 2021 年 10 月 1 日から解除されましたが、新型コロナウイルスの新しい変異株（オミクロン株）が見つかり、世界中で感染拡大が始まり、日本でも感染が拡大しています。毎日の運動不足対策にはマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。毎日の歩いた距離をコースシート上のマスを色塗りして進むバーチャルウォークはやりがいがあります。FWA の HP 「YR・四季の道」の「バーチャル

ウォークコーナー」は各コースが紹介されています。各コースシートを印刷して使います。また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷して利用ください。

歩く際は密閉・密集・密接の密にならないよう、又それ以外の感染対策を怠らないようにお願いします！

平野 寅次郎 拝